

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団 聖山会		
事業所名	グループホーム 風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎 997-3		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成29年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設ではグループホームならではの個別ケアに力を入れています。個別ケアの一環として1対1の会話をし、ご本人の心理状態の把握、体調の把握を行います。またレクリエーションでは1対1の散歩、買い物、少人数でのドライブ、外出レクには出来るだけ参加して頂き1対1で対応しています。ご入居者様の体調管理に関しては母体が医療法人である事から、緊急時、急変時には24時間体制で行なえる用意をし、訪問看護との協力体制を整え看取り介護にも力をいれています。毎日ゆったりと過ごして頂ける事がスタッフの喜びです。「自然にあふれる笑顔」を大切に、風早の里での時間をゆくりと流れるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風早の里」は、入居者の笑顔を大切にしており、全ての入居者にその人らしい生活が営めるように支援する事を目指している施設である。入居者一人ひとりの身体状況や希望・意向に配慮した個別性のある外出支援に取り組むと共に、地域行事・催し物・地域のサロンへの参加等、理念に基づいたケアの実践に努め、入居者の生活活性化に繋げている。他にも、柏市グループホーム連絡会に所属し、連絡会主催の交流行事への参加や市や他グループホームとの情報交換の機会を活用しており、事業所以外の意見や経験を施設運営やサービス向上に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「自然にあふれる笑顔を大切に」を基本とし、スタッフは笑顔で心がけ家庭的な雰囲気の中、入居者様が毎日笑顔で生活が送れるよう支援している。	「自然にあふれる笑顔を大切に」と言う施設理念を掲げ、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達への周知を図っている。日々の関りの中で、理念に基づいたサービス提供を意識し、意見の統一を図っている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。福祉専門学校の実習生の受け入れを行っている。	自治会に加入すると共に、地域行事や町内合同防災訓練への参加等、積極的に地域交流を図っている。また、地域の小学生による「町たんけん」の受け入れや専門学校の実習生受け入れも行っており、世代間交流の機会も設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の電話での相談、入居されているご家族の相談に随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・地区社共・民生委員・ご家族・入居者を交えての現況報告、出席者の要望、意見交換等を行い可能な限りサービス向上に努めている。	地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・民生委員・入居者・家族・職員等を構成員として、3か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見をサービスの質向上に活かしている。また、消防立会い避難訓練を同日開催する等、会議を活用しながら、地域や出席者の理解・支援を働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会の会議に出席し、市との意見、情報交換を行っている。高齢者支援課、地域包括センターに直接訪問したり電話により不明な事項等を相談し早期に解決できるように連帯している。	日頃から市に対して、業務全般における報告・相談等を行うと共に、運営推進会議を通じて、意見や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。柏市グループホーム連絡会に加入しており、会議や行事を通じて、市と意見・情報交換を行う等、相互に地域福祉の問題解決や活性化に取り組む体制が構築されている。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、事業所内での研修を行い、身体拘束防止マニュアルに沿って拘束のないケアを実践している。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルが整備すると共に、内部・外部研修の実施・参加をしており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。施設の方針や取り組み等については、入居者・家族と同意書を交わしており、家族からの理解は得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、事業所内での研修を行うと共に、職員のメンタル面に気を配り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、資料を配布し理解を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項の説明を行い不明点がないか確認している。改定の際は文書や口頭にて説明理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談窓口、意見箱を設置すると共に、家族来訪時や電話連絡時に家族の要望、意見を確認上がった意見や要望に対しては申し送りや会議を通して職員に通知、検討し迅速な対応を行っている。	家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議等を活用して家族の意見・要望を確認している。定期的に施設便り等の手紙を家族に送付すると共に、運営推進会議の議題に工夫を凝らす等、出席率向上や信頼関係構築に努めている。挙げた意見・要望等においては、職員全員に周知し、会議にて検討しながら適切な対応を図っている。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議・個人面談時意見や提案を確認し、運営会議で検討、反映させている。	定期的に会議や個別面談を行い、全職員から意見・提案等を確認している。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を言い易いような環境作りを心掛けている。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させている。内部・外部の研修への参加や柏市グループホーム連絡会による同業者同士の交流の機会も確保されており、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、又処遇改善交付金を活用している。資格取得の補助、研修参加等を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修への参加、講師を招いての内部研修を行い、新人研修としてエルダー制度を導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の定例会、研修会に参加。又他ホームの見学を通して他施設の管理者、スタッフ間の交流をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や、生活に対する習慣、こだわり精神面を丁寧にアセスメントする事で、ご本人を理解し、個別対応を行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、真の要望や困っている事を確認、なんでも相談できる環境、雰囲気づくり、何時でも連絡が取り合える体制を整え、職員が周知できるよう情報の共有に努めている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の言葉やご本人の身体状況からニーズを導き出し、サービスを見極め必要とされるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを大切に、生活を共に送る家族として、一緒に楽しみ共感し合える環境をつくりご本人に寄り添っていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回ご本人の日常生活の様子を各担当者が書き送付している。必要時にはご本人の様子を電話連絡し家族が面会に来られる機会がもてるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の意向に添って連絡できるように支援している。入居前の友人、知人との交流、馴染みの場所等を把握し、家族の協力を得て継続できるよう支援している。	地域の商店への買物や地域行事への参加等、馴染みの場所への外出を支援している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族関係継続も支援している。入居者一人ひとりの希望に応じた少人数・個別での外出も実施している。他にも、地域のサロンへの訪問・グループホーム連絡会主催の交流行事への参加等、馴染み関係継続や新たな馴染みの関係構築にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾むような座席の配置に考慮したり会話をスムーズに行う為に職員が間に入り入居者同士が関わり合いながら生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や関係機関の紹介等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の状態を観察し、ご本人の話を傾聴しながら思いや意向を把握しケアカンファを行い出来るだけご本人の意向に添ったケアの提供に努めている。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行うと共に、必要に応じて、医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は、生活の様子や会話の中から意向をくみ取り、記録している。家族との話し合いや定期的に職員間の検討を行い、その人らしい生活に向けた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人の生活歴、こだわり、趣味、性格等をご本人、家族から聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態をケース記録、排泄状態、水分食事量、バイタルを個々に記録し、朝の申し送り時に前日の状態、夜間の様子を報告、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の意向を踏まえ、記録を活用し管理者、居室担当者が介護計画の原案を作成しユニット会議において原案を検討、意見をまとめ介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認評価を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の意向や記録を基に介護計画の原案を作成し、全職員にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを実施している。入居者の趣味・特技・残存能力を活かせるよう検討をしながら、現状に即した介護計画の作成を心掛けている。	日付・本人や家族からの署名・捺印の記入及び基準に定められた介護計画書の策定や整備を行い、介護計画書に基づいた支援の提供に繋がっていただく事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、日誌、健康管理表の記入、毎日の申し送りを通し情報の共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合の病院受診や緊急時の受診は家族と相談しながら行なっている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理美容、地域の高齢者交流会等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が可能である。状況に応じて管理者、スタッフが付き添う支援を行なっている。定期的に内科医、歯科医による訪問診療が実施されている。又訪問看護と契約を結び健康管理、相談を行なっている。	協力病院や希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。定期的に協力病院の内科医や訪問歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、緊急時・急変時においては協力医療機関や訪問看護ステーションとは24時間体制で協力が得られるよう連携を図っている。その他にも、医療関係の記録を充実化させており、記録を基に医療機関と連携強化や健康管理・状態変化に応じた支援体制の整備を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護のときや状態の変化時には、訪問看護の看護師に連絡、報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に情報の提供をおこない、面会や電話等で情報収集をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、もしくは終末期においてはご家族と話し合いを持ち、必要に応じてご家族、医師、看護師、管理者、介護スタッフとケアカンファを行い、ご本人、ご家族の意向に添った終末期の支援に努めている。	重度化・終末期においては指針を明文化し、入居者・家族へ説明の上、同意を得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を踏まえ、支援方法の検討・統一を図っている。日頃から医療面においては協力病院の医師や訪問看護ステーションの看護師等と連携を図り、状況の変化やニーズに応じた適切な支援に向け体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習にスタッフ全員が参加している。新入職者も随時受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの非難誘導訓練を年2回実施。運営推進会議で家族参加での訓練も行なっている。定期的に火災報知機の取り扱い等を職員で確認、非常時に備えている。	緊急時・災害時マニュアルを整備すると共に、避難経路図の作成・掲示・複数の避難経路も確保している。また、消火器・自動火災報知機等の機器を設置し、災害時・緊急時に備えている。年2回、消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会いや夜間を想定しての訓練を実施し、避難経路や対応方法の確認を行っている。運営推進会議との同日開催や地区の防災訓練へ参加する等、地域関係者との理解促進・協力関係構築に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が理解しやすい言葉を用い、自己決定出来るよう配慮している。言葉使いをスタッフ間で確認しあい人生の先輩として敬意を持ち接する事を心がけている。	会議・研修等でプライバシー保護や接遇についての指導を行っている。日頃から職員間で入居者一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法等の確認を行い、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけの訴えだけでは無く、表情、しぐさ等でご本人の思いを推測し、自己決定が出来るよう問いかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の状態に合わせ柔軟に対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は職員がアドバイスをしながら選んで頂いている。又訪問理美容、お化粧品教室に参加しおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力に合わせ、盛り付け、片付けをスタッフと一緒にしている。施設の食事以外に出前を取ったり、外食レクを行なっている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から後片付けまで職員と協働で行っている。献立と食材の購入は、委託業者を利用しているものの、入居者の嗜好・身体状況・栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。定期的に手作りおやつ・誕生会・外食会・出前等を企画・実施しており、食に対する様々な楽しみを提供している。イベント開催時には家族や地域住民を招待しており、食を通して外部の人達との交流も図っている。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食事を把握し、摂取量が減少した場合は、食事形態を見直し、ご本人に合った形態で提供又好みの物や栄養補助食品を提供している。水分は決められた時間以外にも提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。週1回の訪問歯科の診療、口腔内チェックをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握声かけやトイレ誘導で失禁をなくし自立に向けた支援をおこなっている。	排泄チェックリストを活用しながら一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声かけ・トイレ誘導を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。夜間は、入居者の能力や状況に配慮しながらトイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、食事の工夫・日常の運動・マッサージ・医師や看護師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、水分補給、腸内環境を良好にする飲み物等の提供を行なうと共に主治医による薬の処方、毎日の運動を心がけている。便秘薬の研修や便秘についての研修を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は無理をせず、タイミングを待ったりスタッフを交代して入浴をして頂いている。	浴室は、暖房・トイレ・天窓が設置されており、安全で快適な入浴ができるように配慮した造りとなっている。入浴は希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態を把握し、自由に生活できるように気を配り、疲れている様子が有れば、声かけを行い居室で休んで頂く。夜間の睡眠状態を把握し個々に合わせた支援を行なっている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ルールに沿って誤薬が無いように服薬介助を行なっている。薬変更時には、目的や用法をその都度スタッフ全員が周知できるよう申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗い物、洗濯たたみ、掃除などを無理のないようにお願いし、買い物好きな方には買出し時に同行してもらっている。歌が好きな方にはカラオケ等を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてドライブや散歩を楽しんでもらったり、季節ごとの外出行事や外食レク等を行なっている。	日頃から散歩・買い物・ドライブなどの外出支援を行っている。年度初めに家族も含めた季節毎の外出行事を計画しており、戸外での楽しみを支援している。また、地域行事・催し物・集会等にも積極的に参加しており、地域住民の協力や交流を広げ、施設・入居者の理解促進や生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設では管理していないが、紛失する可能性が有ると言う事をご家族が納得されている場合ご本人が持ち買い物時の支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとの要望があれば相手先の都合に合わせ使用して頂いている。書ける方に対してはスタッフが協力し書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾りつけを行い季節感を感じていただけるよう気配りをしている。空調、換気、湿度に注意し機器の点検、清掃を行い清潔保持に努めている。	施設内は十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全が確保されていると共に、天窓の設置や適切な空調管理も行っており、明るく居心地の良い空間となっている。ウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気を楽しめる住居環境となっている他、ユニット間の行き来が自由となっており、交流や気分転換ができるよう工夫している。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、自発的な行動が出来るよう配慮している。フローアや玄関にイスを配置し自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談し、馴染みの物を持ち込んで頂き、ご本人が落ち着いて暮らせるよう配慮している。	入居者・家族の要望により馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活出来るように配慮されている。入居者一人ひとりの身体状況・生活歴等、個性を活かした居室作りがなされている。居室表札・飾り付け・掲示方法等、身体状況に応じた工夫を行う等、自立に向けた支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の名札は、迷わない用に個々に合わせ工夫している。手すりを配置し転倒なく安全に自由に歩行できるように配慮している。		